

「転移性骨腫瘍の新しい治療法の開発を目指した基盤的研究へのご協力をお願い：多施設共同研究」

【研究対象】

2016年5月31日～2020年3月31日に当院で転移性骨腫瘍と診断され、検査・手術を受けられた患者さんを対象としています。（なお、当院での本研究の実施にあたり、東京歯科大学市川総合病院倫理委員会での承認および病院長の許可をえています）。

【研究の目的・方法】

骨への転移は、肺がん、乳がん、腎がん、前立腺がんなど、さまざまながんにおいて発生します。わが国では年間10万人前後のがん患者さんが骨転移を発症しています。転移性骨腫瘍は痛みや骨折を引き起こす原因となり、生活の質（QOL:quality of life）を低下させる大きな問題となります。そのため、転移性骨腫瘍の治療は患者さんの生活の質を改善するために重要です。

転移性骨腫瘍に対する治療の一つとして、手術治療が行われることがあります。脊椎や骨盤など手術が困難な場所に骨転移が生じた場合には痛みの緩和などの対処療法しか治療の手段がないことがあります。このような手術ができない患者さんに対しては、骨に転移したがん細胞とともに骨を壊していくことに関与する破骨細胞という細胞の増殖を押さえる治療薬が使用されることがありますが、それ以外は特に有効な薬剤がないのが現状です。

がん細胞培養株やがん細胞を移植した実験動物モデルは、がんの骨転移に対する新しい治療法の開発や骨に転移するメカニズムの解明において欠かすことができない重要な研究材料です。残念ながら、現在、転移性骨腫瘍の培養細胞株や転移性骨腫瘍を移植した実験動物モデルはほとんど存在していません。そこで、本研究ではがん研究に関して多くのノウハウを有する国立がん研究センターの研究技術を用いて転移性骨腫瘍に対する新しい治療法の開発を行うことが目的です。

そのため、われわれは、検査や手術で採取され、通常は廃棄する余剰の臨床検体（血液、腫瘍組織など）を保存・蓄積して、様々な研究・解析に利用させていただきたいと考えています。

（なお、当院での本研究の実施にあたり、東京歯科大学市川総合病院倫理委員会での承認および病院長の許可をえています）。

研究期間は2016年5月31日～2020年3月31日です。

【研究に用いる試料・情報の種類】

試料：検査・手術の目的で採取した腫瘍組織と検査・手術の際に合併切除された近傍の正常組織（筋肉、脂肪）

情報：性別・年齢・病理診断、病歴、初発・再発、治療内容・治療効果、生存期間等

【外部への試料・情報の提供】

研究事務局へのデータの提供は、特定の関係者以外がアクセスできない状態で郵送にて行います。対応表は、当院の研究責任者が保管・管理します。

【研究組織】

国立がん研究センター中央病院 希少がん研究分野

近藤格

慶應義塾大学病院整形外科

森岡秀夫

【お問い合わせ先】

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒272-8513 千葉県市川市菅野 5-11-13

東京歯科大学市川総合病院

整形外科 渡部逸央（研究責任者）

TEL:047-322-0151 FAX:047-325-4456

研究代表者：

国立がん研究センター中央病院 希少がん研究分野
近藤格

-----以上